



東和町森林組合

Yuusuke Suto
須藤 祐丞さん(27)
東和町・米川10区

地域に合うのは、地域産木材

実家で山を所有しており、祖父が手入れをしていました。自然の中で育ってきたので、自然に関連する仕事に就きたいと思っていました。

木材センターは市内に2カ所、東和と津山にあります。東和町森林組合が運営する東和木材センターには、市内のほか、気仙沼市と岩手県一関市から木材が集まります。

市内産木材を使うということは、木が育ったのとほぼ同じ環境で使うということ。温度や湿度、気候になじむので長持ちします。家を建てる時は市内産木材をお勧めします。

誰もが、家を建てる時は少しでも安くしたいと思いますが、全体に占める木材の価格は2割程度。キッチンやお風呂だけではなく、家本体の材質にも気を配ってはどうでしょうか。

競売

伐採された木の多くは、木材センターに集められ、入札で販売されます。

森林の仕事

森林には、地球温暖化の主な原因である二酸化炭素の吸収や、災害防止、自然環境の保全などさまざまな機能があります。

森林の機能は、「植える→育てる→収穫する」というサイクルがきちんと循環することで十分に発揮され、そのサイクルは林業の担い手によって支えられています。

間伐、製材、加工など各分野の担い手たちに、本市の林業について話を聞きました。



スギ矢羽集成材でサルの置物をつくる板橋芽衣さん(24)。木工芸品に興味を持ち、大学卒業後、津山木工センターに就職しました

森林から搬出された丸太は、製材所などで皮を剥ぎ、加工されます。一本一本、木の特徴を見極め、用途に合った加工を行います

木の伐採は、倒す方向に受け口をつくり、反対側にも切り込みを入れ、倒します。安全のため、木が倒れるまで目を離しません

製材

ニーズに合った製材品を作りたい

津山は林業が盛んで、地域の基幹産業でした。製材業は地域に密着した仕事。なくてはならない大切なものなので、家業を継ぎました。

市内産木材は耐久性に優れ、真っすぐ成長しているので扱いやすい良材です。製材品を多く作れます。先人たちが、丁寧に山の手入れをしてきたおかげですね。

当社では、家1棟の材料をまとめて供給したいと思っています。また、市場から需要のある乾燥材の生産も拡大し、さまざまな建物に対応した製材品を作りたいと考えています。

皆さんに、より多くの木材を使ってもらえるよう、良い材質のものを、より安く提供し、地産地消につながればいいと思います。



株式会社 佐藤製材所

Hiroyasu Sato
代表取締役社長 佐藤 裕康さん(48)
津山町・元町第一

丸太をいろいろな形状・寸法の板や角材に加工します。森林と家づくりをつなぐ役割を担っています。

間伐

人工林では、1畝に3千本の苗木が植えられます。森林を育てるためには、木の成長に合わせて適度に伐採しなければなりません。それを間伐といいます。

Tomohiko Suzuki



津山森林組合
鈴木 友彦さん(38)
(南方町・新高石)

資源を残さず活用

体を動かす仕事をしたいと思っていたので、この仕事を選びました。

主に、山を維持管理するための道路整備や丸太の運搬をしています。

木を伐採したときに発生する枝、葉はごみになります。葉は線香の原料になりますが、安い材料採算が合いません。枝、葉も森林資源なので、有効な活用方法を考えたいですね。

Tsutomu Oe



津山森林組合
大江 勉さん(38)
(追町・西表)

次世代に美しい森を

登山をしていて、山に興味を持ったので、山で働きたいと思っていました。

主な仕事は間伐です。密集していた木を伐採すると、木々の間から光が差し、明るい森になります。間伐した森林はとてもきれいで、やりがいがありますね。

山は私たちの暮らしに欠かせないものなので、きちんと整備して、次世代に美しい森を残したいです。

Syunsuke Inomata



津山森林組合
猪股 俊輔さん(32)
(中田町・蓬原)

木材を使ってほしい

自然が好きだったので、山で働こうと思いました。

主な仕事は間伐です。間伐は良材にするために必要なこと。一般に木材は、真っすぐで、年輪幅の均一なのが良材です。加工しやすく、見た目もきれいだからですね。市内の木材は成長が良く、良材が多いです。市内産木材の良さを知っていただき、たくさん使ってほしいですね。

加工

職人の技により、家具や木工品に姿を変える木材。姿を変えることで、さまざまな用途に生かされます。

良材から美しい製品が生まれる

津山木工芸品事業協同組合は、間伐材の有効活用のため1982年に設立されました。

当組合の木工品は矢羽模様の特徴。市内産スギ材にこだわり、器や家具、玩具などさまざまな製品を作っています。市内産木材は、年輪幅が均等な感覚で育っているので木目がきれい。矢羽模様にしたときに美しく仕上がります。今こうして良材を使えるのは、生産者の皆さんが間伐などの手入れをきちんとしてきたおかげです。

木工芸品の良さは傷が付いても直せること。末長く使ってもらえるとうれしいですね。

特注品の注文も受けますが、手作りのため生産数に限りがあります。今後、生産数を伸ばせるよう職人を育て、技術を磨き、市内産木材の活用に協力していきたいです。



津山木工芸品事業協同組合

Kiichi Sasaki
理事長 佐々木 喜市さん(64)
津山町・横山1区

※製品は、「もくもくハウス」で販売しています。
【問い合わせ】もくもくハウス(津山町横山字細屋26-1)
☎0225(69)2341